

第 4 回協議会での主な意見			
議題	第 4 回協議会		第 5 回協議会対応
	質問および確認事項等	回答	
議題－ 2 地元意見への対応	特に無し	特に無し	－
議題－ 3 高塚川流域浸水対策アクションプラン（案）について	①道路冠水に関して効果が示されているが、緊急車両等のための、安全な通路の把握や確保の視点から、成果を見ておくとよい。 （県河川砂防局長）	①風水害時の道路情報の公開として、通行止め等をリアルタイムでホームページにアップすることで周知を図ろうと考えている。 緊急車両の通行路確保は重要である。浸水深等のデータから、今後検討していきたい。（事務局）	災害時の道路情報をリアルタイム閲覧ができるよう、浜松市 HP「浜松市防災マップ」上で、5 月 2 5 日より配信を開始した。
議題－ 4 取組み状況と今後の予定	<p>①集落制度の基準等の見直しというのは、具体的にはどのようなことか。制度を適応する区域を、湛水域から外すというイメージで良いか。 （浜松土木事務所長）</p> <p>湛水域の宅地化の抑制を図る目的での基準の見直しということによいか。（県河川海岸整備課長）</p> <p>基本的には農地区域については農地を守っていくという観点でお願いしたい。（県農地計画課）</p> <p>②貯留量について詳細な記載がないが、施工の関係で問題が発生した場合、調整をどう図るか分からなくなる。調整池容量の詳細をお互いに確認できるように整理したほうがよい。可能であれば本文にも記載を。また、今後の整備の調整はどのように行うか。（県河川砂防局長）</p> <p>③ポンプ能力の増強をした場合、本当に集水できるのか。（県河川海岸整備課長）</p> <p>④浸水想定区域図は平成 29 年度に公表する。ハザードマップは馬込川・天竜川とまとめて作成するため、平成 31 年度完成予定ということか。（浜松土木事務所長）</p> <p>⑤避難に関する情報提供について、運用はいつからか。（浜松土木事務所長）</p> <p>⑥水田貯留についてあるが、農地の被害に関しての効果はどうか。（県河川企画課長）</p>	<p>①背景として、昨今の社会情勢、高齢社会等の情勢の変化に合わせて基準の見直しを以前から検討していた。その中で、基礎調査を実施するにあたり、今回の縁辺、大規模集落制度に係る、土地利用状況を視野に入れ、基礎調査を行った上で、基準の見直しを考えている。現在は制度の見直しというところはまだ漠然としている。湛水域から外すかどうかまでの検討を調査によって決めていく予定。（市土地政策課長）</p> <p>②調査が不十分で、全体の目標値を記載している。個別の貯留量については第 3 回協議会資料に記載している。不足分等は、他地に施設を設置していくか、進捗の中で検討していく。 また、事務局として河川課が調整を図っていく。（事務局）</p> <p>③シミュレーションにより集水可能であると確認している。（事務局）</p> <p>④馬込川・天竜川とまとめて作成する。 想定最大降雨規模で考えると、ハード、ソフト対策の見直しが必要となる場合があるため、平成 31 年度と記載している。（事務局）</p> <p>⑤基準の設定は平成 28 年度中に完了したが、その後基準に達する豪雨が発生していない。避難判断情報とともに、避難場所についても発信していく予定である。（事務局）</p> <p>⑥農地に関して被害はないと報告を受けている。（市農地整備課） 農地に対する対策実施後の効果はシミュレーションしていない。（事務局）</p>	<p>－ （※ 対策メニューの進捗状況及び実施内容については、議事(3)「各対策の進捗状況及び H30 年度予定」の中で詳細説明を行う。）</p> <p>－</p> <p>－</p> <p>－</p> <p>－</p> <p>－</p>
議題－ 5 全体質疑	特に無し	特に無し	－